会議録

（１）会議名
第２回北杜市八ヶ岳スケートセンター周辺地域活性化協議会

（２）開催日時
令和４年５月９日（月）午後２時～午後３時３０分

（３）開催場所
北杜市役所本庁　北館大会議室

（４）出席者
委員
地域を代表する者　高橋　隆
地域を代表する者　進藤　幸夫
地域を代表する者　遠山　俊祐
関係団体の代表者　望月　和彦
関係団体の代表者　佐野　極
関係団体の代表者　小林　明
関係団体の代表者　渡邊　正樹
関係団体の代表者　中村　洋一
関係団体の代表者　小林　昭治
関係団体の代表者　中山　宏樹
関係団体の代表者　宮沢　俊彦
関係団体の代表者　大川　正勝
関係団体の代表者　中沢　良一（代理委員）
関係団体の代表　清水　勝
関係団体の代表者　山寺　法和
関係行政機関　初鹿野　晋一
関係行政機関　三井　博志
関係行政機関　有泉　清貴
関係行政機関　小泉　嘉透
関係行政機関　渡邉　聡尚
教育機関　小池　雅美
市
関係部局長
事務局
北杜未来部長　宮川勇人
政策推進課長　川端下正往
政策推進課政策調整担当リーダー　篠原振一郎
政策推進課政策調整担当　清水将

（５）議題
・周辺地域活性化構想における目指すべき将来像及びターゲットについて
・その他

（６）公開・非公開の別　　公開

（７）傍聴人の数　　３名

（８）議事の進行経過

１．開会
午後２時００分
２．新任委員紹介
３．公開の可否の審議
（事務局）「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第４条に、公開非公開の決定は会議の開催前にあらかじめ決定することが規定されている。ついては、同要綱第３条に基づき、本日の会議は公開としてよろしいか。
（委員一同）異議なし
（事務局）異議なしとのことなので、本日の協議会は公開とする。
４．会長挨拶
（小林委員）
・県が運営していた八ヶ岳スケートセンターは、先月から北杜市に譲与された。
・リンクの内側は、スケートボードやローラースケートなどの設備を整え、新たに通年で利用者を呼べる施設になるよう整備を進める方針である。
・小淵沢地域は民間企業の進出も進んできている。周辺地域についても、スポーツ、アウトドア、文化をコンセプトに、官民連携を図りながら活性化していくための構想を、協議会の中でまとめていきたい。
５．議事
（事務局）協議会設置要綱第６条に基づき、小林会長に議長となっていただく。小林会長に議事の進行をお願いする。
（議長）会議録については、「北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱」第９条により会議の会議録を作成し、公表することとなっている。
また、会議録には会議で指名する者、２名以上の署名が必要であり、議事録署名委員を委員の中から指名する。
前回会議から続き、「あいうえお」順で、有泉委員と小池委員を指名する。
それでは、議事について事務局より説明を求める。
（事務局）議事の（１）周辺地域活性化構想における、目指すべき将来像及びターゲットについて、別紙資料をもとに説明。
【以下説明要旨】
・周辺地域活性化構想の期間は、市の総合計画の基本構想の計画期間に合わせ、令和５年度（2023 年度）～令和 12 年度（2030 年度）としたいと考えている。

・今回の会議での論点は、①八ヶ岳スケートセンターの年間を通じた新たな活用策、要素が加わることによる、対象エリア内での目指すべき将来像が妥当であるかどうか。②目指すべき将来像に合わせたターゲットの設定は妥当であるかどうか、の２点である。
・リンク内側の活用策としては、スケートボードを中心に、フットサルや、リンク自体についても、スケート選手が夏場のトレーニング用としてインラインスケートとして利用できるイメージである。
・前回協議会後、ワーキンググループ（以下、「ＷＧ」と表記）を２回開催し、事務局から将来像とターゲットについての案を出す中で、様々な意見をいただいた。
・事務局としては、ＷＧでの意見を踏まえ、小淵沢エリアは、豊かな自然やスケート、芸術、食、それに、新たに加わるスケートボードや、周辺に建設予定のキャンプ場などのアウトドアの要素を総合的に勘案すると、「アドベンチャーツーリズム」と親和性が高く、これを軸とした将来像で考えていくこととした。
・事務局からは、目指すべき将来像の案として、「スポーツ・アウトドアの聖地「アドベンチャーリゾート小淵沢」」を、また、将来像に合った本エリアのターゲット案として、「スポーツやアウトドア、健康に関心が高い、首都圏のファミリー層」を提案する。

（議長）事務局からの説明が終了したが、説明を踏まえ、委員の皆様から一人一言ずつ意見を伺いたい。

【各委員からの意見】
・道の駅こぶちさわにはサテライトオフィスが開設された。小淵沢内には他にも民間のサテライトオフィスも開設される予定である。
・周辺にはグランピングの建設計画もある。小淵沢の特性を生かし、観光客に楽しんでもらいたいとの事業者の思いがある。
・富士北麓が県内では前に出ているが、小淵沢エリアにはポテンシャルがある冬の観光として、インバウンド対策、手伝いができれば連携して活性化していきたい。
・バスなどの二次交通を活用し、点ではなく面で集客できるような仕組みづくりが重要と思う。
・スケートリンクについては、温暖化の影響で、シーズン中でも日中の使用が困難な日が増えてきた。屋根などの設備があれば、雨や雪の影響なく通年利用もできると思う。
・ワイナリーの整備を進めており、令和５年のプレオープンを目指している。また、農業法人で作るカフェを運営しようとも考えている。周辺に様々な施設ができるのは嬉しい。駐車場を活用してもらうなどして、地元と一緒に活性化を図っていきたい。
・小淵沢エリアには観光資源が集まっており、地域の魅力を後押ししてくれる企業もある。点ではなく面で活性化が図れていけば良いと思う。
・県ではスポーツコミッションを立ち上げた。小淵沢はポテンシャルの高い地

域として認識している。県の施策とどのように絡められるか検討していきたい。
・サテライトオフィスは、整備しても入居がないところも多いと聞いている。ベンチャーやスタートアップを考えている若い人材を支援しているため、そういった若い方をターゲットとする中で、ともに活性化を推進していきたい。
・観光の高付加価値化が重要。また、滞在時間を増やし、リピーターになってもらうのを、どのように進めるかも重要。馬を移動手段にもできれば、点と点を結ぶ役割、または地域の特徴として活用できると思う。
・馬術競技場で開催される全日本ジュニア障害競技は２千人程度が訪れる。乗馬クラブにも協力してもらい、観光向けにもともに取り組めれば良い。
・スケートセンターを地元の子どもにもどのように利用してもらえるか、今後も考えていく必要がある。「ここでしかできないことをさせたかった」との理由から、移住者の中には、スケートを子どもに習わせている方もいる。移住者がここだからこそできることとして付加価値を感じてもらえる取組を考えるのが良いと思う。
・下水道や湧水など「水」への影響を心配している。移住者や観光客が増えてきた時に、水をどのように処理するか。下水処理場の整備など、市でも考えてもらう中で進めてほしい。
・馬術の全国大会を小淵沢でしていることを、もっとＰＲできれば良い。
・アドベンチャーリゾートの提案は良い。スケート場は冬の対策をどうするかが重要。屋根をつけるのが難しければ、北側に壁をつくるなどもできる。それをボルダリングに活用することも考えられるのではないか。
・甲州忍者タウンを推しても面白いと思う。
・小淵沢には美術・文化がある。スケートリンクを中心に考えれば、スポーツとしてボルダリングをリンク内側に組み込むのが良い。アドベンチャーツーリズムとウェルネスで高付加価値を図り、また、持続可能な地域として、ＳＤＧｓなど環境に配慮した地域を作っていくとＰＲになると思う。
・企業のＭＩＣＥや教育旅行の活用も考えられる。また、食の充実の中でも、特にお酒が重要と考える。
・肉体的にも精神的にも健康になれる、というのはイメージに合っている。プラス、金銭的にも潤ってもらえる地域というのはどうか。首都圏のファミリー層が長期滞在して、満足の行くサービスにお金を使う。すると地元にもお金が落ちる。
・中京圏からくる人が多くなっている。名古屋などの人をターゲットに入れても良いと考える。
・「アドベンチャー」という言葉は、体育会系のイメージがある。国が推し出している言葉を、そのまま小淵沢地域に当てはめるのが良いのかは議論の余地がある。カタカナを使わなくても良いが、このエリアでしようとしていることを、もっとうまい言葉で表すものがあれば良い。
・現在は親がゲーム世代で、自然と触れるだけで喜ぶ方もいる。親子で安心して楽しめるリゾート地になれば良い。
・点ではなく面で結ぶためには、エリアパスポートや地域通貨などを活用し、割引きサービスなどの特典付きで使用できる仕組みを構築することも考え

られる。
・駅の北側エリアに比べ、駅より南側のエリアは空き家も増えてきており、開発が進まず寂しく感じる。
・小淵沢町全体の活性化も考えてほしい。駅より北側はほとんど開発が進んだが、南でも農業体験などできることはあるので、全体の活性化も可能と考える。
・地域住民に迷惑をかけない形で活性化を進めることを忘れないでほしい。

（会長）
・水の処理、湧水についての懸念については、現在は浄化槽を利用しているスケートセンターも下水道に繋ぐなど、整備を検討している。
・アドベンチャー、ウェルネスなどの言葉の使い方が妥当であるか、考えた方が良いかもしれない。事務局はどう考えるか。

（事務局）「アドベンチャー」は、大自然の中で活動するような言葉の印象がどうしても強い。イメージが先行してしまうのは本意ではないため、ＷＧも含めて、再度検討する。次回は検討後の案とともに、それと合せる形で活性化策についても提示させていただきたい。
（議長）加えて、ご意見があれば伺うがどうか。
（委員）活性化に当たっては、雇用の問題が出てくる。人手が欲しくても足りず、また、給料が高くないと集まらない現状もある。活性化に当たっては、地元の人の雇用も生まれることも活性化の一つであると考える。雇用の創出はエリア全体の活性化にもつながるため、検討してほしい。
（事務局）了解した。委員の皆様からアイデアをいただく中で検討していく。
（議長）議事（２）その他について、委員から意見等があれば伺いたい。
（委員）意見なし。
（議長）事務局からはあるか。
（事務局）第３回協議会は夏頃の開催を予定しているが、場所を小淵沢に移して行いたいと考えている。詳細は後日連絡する。ＷＧについても、開催連絡等関係者あてにするのでお願いしたい。

（議長）すべての議事が終了したため、事務局に進行を移す。
（事務局）
今回の協議会での意見は、次回会議の提案に生かしていく。
以上で本協議会は終了とする。

６．閉会
午後３時３０分